

M 谷氏邸訪問記(2014.8.23)

1. 始めに

M 谷邸には今年の 3 月に訪問させていただき、M 谷氏邸訪問記(2014.3.12)として詳しく報告いたしました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/18896bc5b66674918e46db6481e7ce83.pdf>

また、今年の 5 月にも短時間でしたが、お邪魔してその後導入された AIT LAB の DSD 対応 DAC を次のようなルートで聴かせていただき、5 月 5 日の研究室日誌で報告いたしました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2373>

PC→hiace evo→AIT LAB DAC (PCM to DSD リアルタイム変換再生)

PC→AIT LAB DAC (PCM to DSD リアルタイム変換再生)

PC→AIT LAB DAC (DSD native 再生)

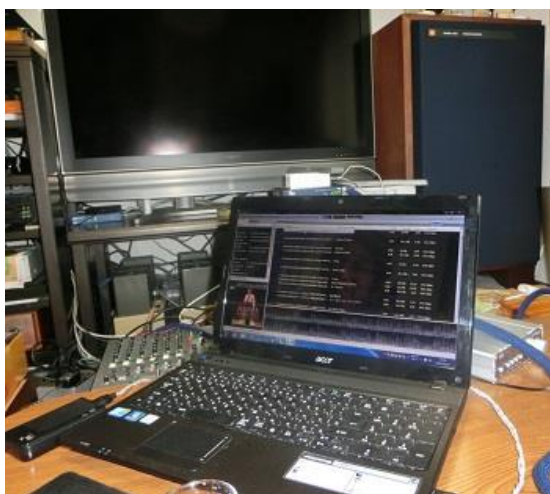
今回は、さらに USB リバメンテを持参してその効果も含めて再度聴かせていただきました。

2. 試聴の経過

M 谷邸のシステムはM 谷氏邸訪問記(2014.3.12)で詳しく述べていますので省略いたしますが、最近の注目点は AIT LAB の DSD 対応 DAC の活用ということになります。

入力系は YAMAHA の GT-2000、CEC の TL3N などアナログや CD も聴かれますが、最近は主に PC-ディオを聴いておられ、MUTECH MC-3 や M2TECH HiFace EVO CLOCK からのクロック入力も積極的に活用されています。前回同様、再生ソフトの foobar2000 により、いろいろなフォーマットでの再生を聴かせていただきました。





この foobar2000 と AIT LAB の DSD 対応 DAC のセットで、①PCM 音源そのまま、②5.6MHz,DSD 変換、③11.2MHz,DSD 変換の比較を M 谷邸自作の USB ケーブルと USB リベラメンテを取り替えながら聴いていきました。M 谷氏によれば、5.6MHz,DSD へのリアルタイム変換までは良しとするが、11.2MHz,DSD リアルタイム変換では、すこし音が大人しくなりすぎるきらいがあるようだとのことでした。個人的には 11.2MHz,DSD の潜在的な可能性を USB リベラメンテによりアシストできるのではないかと強く感じました。この 11.2MHz,DSD のポテンシャルの確認は、micro iDSD が入手できればじっくり試してみたいと思います。

3. まとめ

以上の実験は非常に興味のあるものでしたが、フォーマット間の印象については、若干意見が分かれました。即ち、D 氏は DSD にすると細かい音も良くでていて、メリットは感じられるが、細部の表現に拘り過ぎているよう聴こえるというのです。これに対し、クラシック派の A 氏はホールの生演奏の心地よい再現に近づくメリットを主張され、小生は細部に拘るというよりは、隠れていたものが現れてくるのではないかという意見です。これに対する解釈ですが、今まで聴いてきた CD などの印象を肯定すれば、フォーマット変換の効果は逸脱と感じられるでしょうが、今まで聴いてきた CD に飽き足らないところが多々あるクラシック畑の古い世代のものにとっては、一種の救いの神みたいにも感じられるという、出発点の認識の違いのようにも思われます。察するに D 氏はちょうど絵画の鑑賞には適度な距離があることを言うておられるのかも知れません。本件は宿題としておいて拙宅に導入予定の micro iDSD で多様なフォーマットの音源を取りそろえ、さらに検証していきたいと思っております。個人的には 11.2MHz,DSD の潜在的な可能性を USB リベラメンテによりアシストできるのではないかと感じましたので、自宅でもじっくり評価していくとともに、次回は、M 谷邸の AIT LAB の DAC で 11.2MHz,DSD などの音源を取りそろえて聴かせ

ていただきたいと思います。

上記のようにフォーマットについては意見は分かれましたが、ネットオーディオ誌上で評判をとったテクノポップス系の 11.2MHz,DSD の付録音源は、今回のメンバーも含めて周辺には肯定的な評価は今のところ聞かれていません。

以上